



飯地小学校だより
令和7年度 第7号
令和7年9月26日



飯地小学校 HP

夢をもち、懸命に生きる子 ～進んで学ぶ子・思いやりのある子・元気な子～

運動会「全力・協力」みんなでやりきるぞ!

校長 下畑 茂

◇「日常の力」を「行事」とつないでいく

『秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども

風の音にぞ おどろかれぬる』

秋の訪れを、長そでを羽織って登校する子ども達が教えてくれます。9月を迎えても、毎日暑い日が続いていました。飯地町に、予想を超えた突然の大雨が。人は自然と共存していると感じました。

通学路で見つけた栗を拾って下駄箱に並べている低学年。校庭に育ててきたヘチマから種の収穫を待ちわびる中学年。その一方で、高学年の二人の6年生は、運動会に向けて、日々、大忙しです。

今年も「応援合戦をやりたい」という願いをもち「どんな競技でも みんなでやりきるぞ!」～全力・協力～のスローガンのもと準備・練習を進めています。休み時間や放課後も応援の内容を練って、担当の先生に相談しながら試行錯誤する姿があります。頼れる人がいない不安を抱えて臨んだ初めての全校応援練習。それを希望に変えたのは団の仲間の姿でした。「思ったより、大きな声を出してくれた」「何とかできるような気がしてきた」飯地小の強みは一人一人が主役になれること。各団、8人とは思えない声が教室から響いてきます。全校集会で日々鍛えている話す力。それを基に今年もお家の方、地域の方に元気玉を届ける。そんな運動会になるように、赤白で競い合い、お互いを高め合います。

◇「今日が一輪車教室だったら良かったのに…」

一輪車教室の翌日に4年生が語った言葉です。

子ども達に「飯地小と言えば?」と問いかけると、「一輪車!」という答えが返ってきます。親さんの代から受け継がれ、誇れるものです。それは技術だけでなく、できない事にも挑戦する心、あきらめない心。仲間に支えられ・支える中で培われる関係性。やり遂げた喜び、達成感から得られる自信はかけがえのない宝物です。運動会での一輪車演技を目標に、4月から全校で練習してきました。9月半ばに講師をお招きして、2回目の一輪車教室を行いました。

今年は3・4・6年生が合同演技です。先生の言葉は「もう少しできると期待していたけど…」でした。今の自分たち(子ども達・教師)に何が足りないのか課題を与えてくれました。練習したのになぜできなかったのか話し合い、自分を振り返り、再挑戦。「痛いとアピールしない」「転んだらすぐにどける」「声をかけて合わせる」…集中力、粘り強く続ける力が高まり、見違える姿へと変わっていきました。グラウンドでの練習が始まると、休み時間にも個人練習へ。運動会を終えた後に「明日が本番だったら…」と語ることを誰も望みません。この悔しい経験を「あの失敗のおかげで…」に変えていける。「今日も本番」の魔法の言葉を胸に、力強くペダルを踏み出します。

飯地小学校運営協議会コーナー 飯地町敬老会 子ども歌舞伎お披露目 9月15日(月)開催

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

飯地町の「敬老会」が五毛座にて行われました。恵那三学塾講座を通じて、7名が子ども歌舞伎を演じました。「練習は厳しいけど、やってみると楽しいよ」と春に参加した友達の言葉を聞いて、新たに2名が挑戦しました。

夏休み前から稽古が始まり、十数回の練習を重ねて、舞台に臨みました。家族、祖父母、そして地域の方々に見守られ、練習の成果を発揮しました。堂々と演じる姿に、大きな掛け声と拍手が送られました。「台詞をよく覚えたねえ」「動きを合わせるのは難しいよ。たくさん稽古をしたんやねえ」「かわいい。いいものを見させてもらって嬉しかったです」と参観された方より感想をいただきました。今まで経験したことがない事をやりきった後に感じる達成感。それは大人も子どもも変わりません。一人一人の笑顔に表れていました。ご指導いただいた飯地町歌舞伎保存会の皆様、関係者の皆様方、貴重な機会をありがとうございました。また一つ、飯地町の魅力を学べました。

